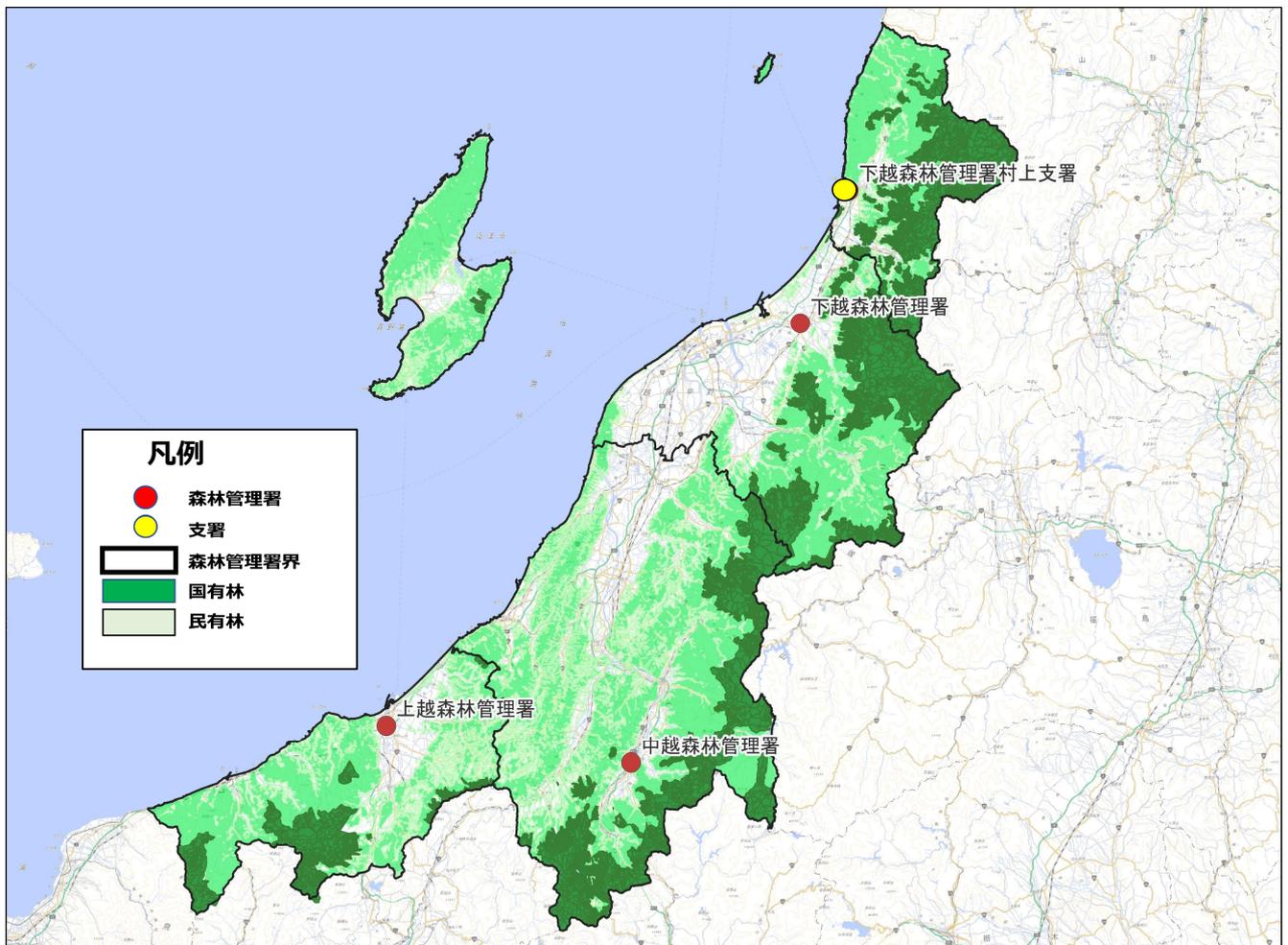


新潟県内の国有林について

令和6年度版

概要



- 新潟県の面積(126万ha)のうち約3分の2が森林(86万ha)で覆われ、その約3分の1に相当する約29万haの国有林を3つの森林管理署(上越、中越、下越)と1支署(村上)で管理しています。
- 国有林の多くが地形の急峻な奥地の山々や河川の源流域に分布していることから、大部分を保安林に指定し、水源を守り土砂災害を防ぐなど公益的機能の発揮を重視した管理経営に努めています。
- また、貴重な自然環境や美しい景観の維持のため、国有林の約7割(19万ha)が国立公園等に指定されており、保健休養・レクリエーションの場としても多くの皆様に利用されています。

省力・低コスト造林の取組

○各種現地検討会の開催

(各署共通の取組)

- 林業の低コスト化を目指して、伐採から搬出、植付けまで連続して行う一貫作業システムの導入や、選木労力軽減や、安全作業を考慮できる列状間伐を推進します。また、下刈の省力化試験や各種現地検討会を開催し、その成果の普及・啓発に取り組みます。



造材集材作業（一貫作業）

○花粉発生源対策

(各署共通の取組)

- 花粉の発生源となっているスギ人工林の伐採と、花粉の少ない苗木への植替えを進めます。また、下越森林管理署と新潟県森林研究所とは、無花粉スギの組織培養苗試験に係る覚書を締結し、フィールドを提供するなど協力しています。



組織培養苗植付

病虫獣害への対策

○ニホンジカ被害に備える

(各署共通の取組)

- 新潟県内におけるニホンジカの生息状況や、被害状況などを共有する目的で、新潟大学農学部、新潟県、県内各署等が連携し、ニホンジカの推定生息数の推移や、センサーカメラ等による行動調査等の調査情報を共有するとともに意見交換を行っています。

新潟県内ではニホンジカによる顕著な森林被害は確認されていませんが、将来に備えるため、県内猟友会と森林管理署との捕獲協力協定に向けた調整も継続していきます。

○くくりわな研修

(中越森林管理署、下越森林管理署)

- ニホンジカの分布域拡大に伴い、森林被害への対策が喫緊の課題となってきています。近い将来に備え、固体数調整の推進に向けた技術を習得するため、県内各署職員を対象とした有害鳥獣捕獲（わな）研修を実施します。



ニホンジカ情報の意見交換



有害鳥獣捕獲（わな）研修

民有林行政との連携

○民有林と国有林の情報共有と意見交換 (各署単位の取組)

- 民有林と国有林の情報共有と、より一層の連携を図る目的で、県内の各森林管理署単位で、県出先機関（地域振興局）、関係市町村と継続した打合せを実施します。上越森林管理署では、現地視察を併せて実施しており、村上支署では、現地検討会などを県出先機関とタイアップし実施しています。



民国連携打合せ会議

地域の人材育成に向けた取組

○未来への投資 (下越森林管理署)

- 新潟大学農学部と下越森林管理署では、連携連絡協定に基づき、大学側の研究及び教育活動と、管理署側の業務に助言をもらう目的により協定を締結しており、取組の一つとして、学生の実習場所として、国有林のフィールドの提供等による人材育成を支援します。



農学部学生の間伐調査実習

安心・安全の確保に向けた治山対策

○山地災害復旧事業 (下越森林管理署村上支署)

- 令和4年8月3日から4日にかけて、新潟県北部で記録的な豪雨となりました。この大雨により荒川下流域の広い範囲で土砂災害が発生するなど、多大な被害が発生しました。初期段階では、地元説明会やリエゾン派遣、治山事業による応急対策を実施するとともに、国交省、新潟県、関係市村と連携調整を行いながら早期復旧に努めます。

○着実な治山対策の推進 (上越森林管理署)

- 近年、大雨や短時間豪雨が増加傾向にあり、糸魚川市の奥地で発生した大規模崩壊では、濁水が海岸まで達するなど、水力発電、農業、漁業に被害を与えています。このような土砂災害に対応するため、航空機を活用した治山対策を実施するなど復旧に努めます。



災害関連治山対策施工状況



ヘリ運搬



航空機を活用した資材運搬（追肥工）